

公益財団法人 8020 推進財団

平成 28 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：

糖尿病と歯周病に関わる医科歯科連携推進事業

2. 申請者名：

一般社団法人 大阪府歯科医師会

3. 実施組織：

事業主催：一般社団法人 大阪府歯科医師会

事業協力（順不同）：大阪府医師会、大阪糖尿病対策推進会議、大阪府病院協会、

大阪府私立病院協会、大阪府薬剤師会、大阪府看護協会、大阪府栄養士会、大阪府歯科衛生士会

4. 事業の概要：

歯周病は糖尿病の第 6 の合併症といわれ、両者の関連性が少しずつ認知されるようになった。糖尿病は歯周病を悪化させ、逆に歯周病は糖尿病の血糖コントロールを困難にさせる。糖尿病患者の歯周病を適切に治療することにより、血糖コントロールを容易にし、腎症、失明、神経症などの糖尿病合併症の発症を低下させることが示唆されている。

その一方で、糖尿病の患者に対して、医科と歯科の情報の共有・連携がまだまだ密にないのが現状である。この現状を踏まえ、平成 28 年度はモデル地域において糖尿病と歯周病の医科歯科連携がどの程度機能しているかを調査する。さらに、多職種による糖尿病と歯周病の医科歯科連携に関する普及啓発媒体作成検討委員会を立ち上げ、様々な立場から他職種連携に対し意見を頂戴し、今後の大阪府下の連携につなげることを目標とする。

5. 事業の内容：

①糖尿病と歯周病の医科歯科連携に関する普及啓発媒体作成検討委員会を設置

②モデル地区における糖尿病診療情報提供書を用いた医科歯科連携事業

6. 実施後の評価（今後の課題）：

平成 27 年度に糖尿病と歯周病の医科歯科連携事業を実施した際、糖尿病患者へ歯科受診の必要性を説明することが難しく、患者を説得し切れないとの意見が医科側から上がったため、平成 28 年度は他職種においても糖尿病と歯周病の関連に関する周知や受診勧奨の一助となるような普及啓発媒体を作成すべく、検討委員会を設置した。委員会においては非常に活発な意見交換がなされており、今まであまり関わりのなかった団体もあるため、今後の多職種連携に向けて有意義な場になったと考えている。

モデル地区として堺市で実施した医科歯科連携に関しては、歯科から医科への連携件数が 28 件、医科から歯科への連携件数が 1 件にとどまった。しかしながら、連携した患者の中には、＜糖尿病既往歴＞未受診の方が 2 名、不明の方が 1 名含まれている。また、医科から歯科への 1 件の連携も糖尿病患者の紹介であり、歯科が糖尿病の疑いを発見し、医科に紹介することで糖尿病の重症化予防につなげ、その結果、医科と歯科のコンタクトが増え、医科から歯科への紹介も増加するような流れが出来上がっている医院と歯科医院のモデルケースと考えられる。

歯周病だけでなく口腔機能の低下がサルコペニアやフレイルのリスクを高めるといわれることもあり、今後はもっと広範囲において、ひいては大阪府下全域での連携体制の強化が今後も望まれるところである。各団体の皆様にご協力頂き、現在作成中である普及啓発媒体がその一助となるよう、今後も引き続き周知方法等について検討を重ねていく。